

●菅居古文書 第二卷

本書は嚮きに紹介せられたる如く、河内豊田八幡宮の舊社家であつた菅居家の所藏文書を輯録せられたるもの整理・編纂は西田博士監修の下に神宮皇學館教授佐藤虎雄氏が當られたものである。

第二卷は古記録を主とし、豊田八幡宮に關する緣起、神寶目錄、日録、並に宗旨人別帳の類を收めてゐる。比較的近世のもの、徳川中期以後のものゝみであるが、社人社僧間の動靜を知る材料を提示し、特に維新當時、佛分離の際に於ける豊田八幡宮の狀況を知るに興味深いものがある。(菊版假綴六九〇頁、圖版四葉、京都菅居正治氏發行、非賣品)(以上寺尾)

●石山本願寺日記 上卷

大阪府立圖書館長今井貫一君が在職二十五年を記念すべく出版せられたもの、從來「天文日記」または「本願寺日記」として知られて居た證如上人の日記を印刷したも

のである。それは天文五年正月より同二十三年八月迄十九年間の記事を含み本願寺門主の私生活より他家との交渉本願寺の行事、本願寺を中心とする石山六町の商業、堺その他近接都市の事情、支那商船の來航なき有益の記事を隨所に發見するこゝが出来、極めて興趣深きものがある。共に有力なる史料とすべきものである、本書が本願寺の經驗したいろいろの災危を免れて今日に傳はれるは一の奇蹟ともいふべく更に今回それが西本願寺藏の原本に基いて印刷され一般研究者の自由なる利用を許さるゝに至つたのは最慶賀すべきことである。附録として本願寺系圖抄及下間家系圖抄を添へたのは本文の理解の爲に極めて適切なる參考となるであらう。(菊判七〇六頁、大阪今井貫一君在職二十五年記念會發行)(肥後)

●吉田兼好筆自撰家集 (複製)

兼好自撰の家集なるものは「兼好法師集」の名を以て群書類從の中にも收められてゐるが、今こゝに掲ぐる所の